

上高田一・二丁目及び三丁目周辺地区 まちづくりニュース



発行元：上高田一・二丁目及び三丁目周辺地区防災まちづくりの会

2018.3 創刊号

上高田一・二丁目及び三丁目周辺地区防災まちづくりの会が発足！ 防災性と住環境の向上に向けたまちづくりについて検討します。

設立目的

上高田一・二丁目及び三丁目周辺地区防災まちづくりの会は、木造住宅密集地域である上高田一・二丁目及び三丁目周辺地区（右図参照）の防災性と住環境の向上に向け、地区住民が中野区と共に具体的なまちづくりルール等を検討することを目的として活動を行います。

検討区域

- ・ 上高田一丁目全域
- ・ 上高田二丁目全域
- ・ 上高田三丁目の一部
- ・ 上高田四丁目の一部



面積：約 60ha

会のメンバー構成

地域で活動している新井薬師前駅周辺地区まちづくり協議会から推薦された方、上高田一・二・三丁目の町会から推薦された方、一般公募の方の計15名で構成されています。



当日の様子



当日の様子

今後の予定

地区の課題解決に向けたまちづくりルールについて、他地区の事例視察等も行いながら検討を進め、秋ごろに地区内のみなさまを対象とした報告会を開催する予定です。

地区内の皆様におかれましては、上高田一・二丁目及び三丁目周辺地区防災まちづくりの会の活動に対するご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

第1回防災まちづくりの会の内容

第1回防災まちづくりの会では、会の目的及び主旨の確認を行い、会メンバーの自己紹介を行ったあと、地区の現況と課題について、区から提供された資料をもとに、活発な意見交換を行い、大きく下記の3つの防災上の課題があるということを確認しました。

倒れやすいまちである（建物倒壊の危険性）

- ・新耐震基準以前（昭和56年5月31日以前）の古い木造建築物が全体の4割を占めている。（右図参照）
- ・木造及び木造モルタル造の建築物が全体の6割を占めている。

古い木造建物の割合が高く、地震時に建物倒壊の危険性が高い。

燃えやすいまちである（火災延焼の危険性）

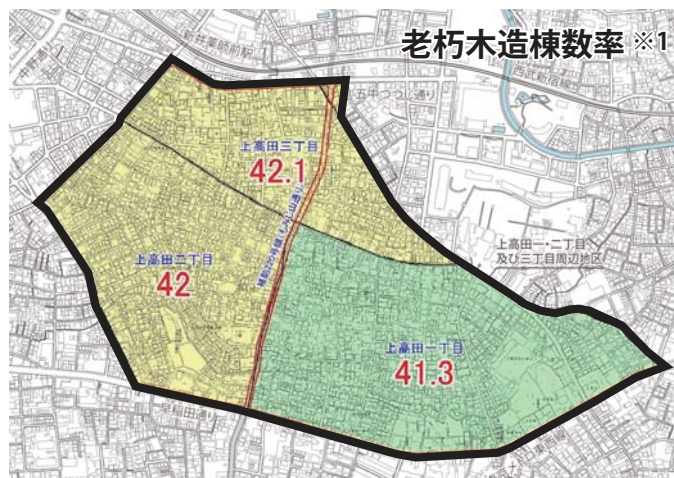
- ・当地区の延焼クラスター（地震に伴う火災で、消火活動が行われずに放置された場合の延焼棟数。1000棟以上は延焼危険性が高いと判断される。）は、2000棟を超えており、延焼危険性がかなり高い。（右図参照）
- ・市街地の燃えにくさを示す指標である不燃領域率は40%台と低い。（70%で焼失率がほぼゼロとなる。）
- ・災害時に消防車による消火活動が出来ないエリアが各丁目とも2割程度を占める。

非常に燃えやすく、火災発生時に市街地大火となる恐れがある。

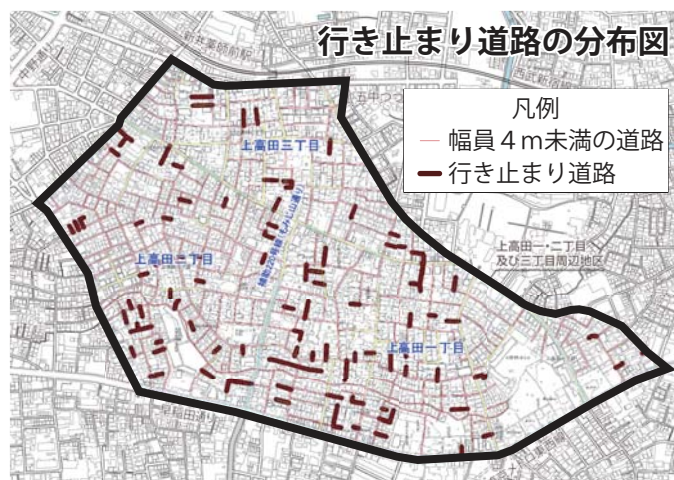
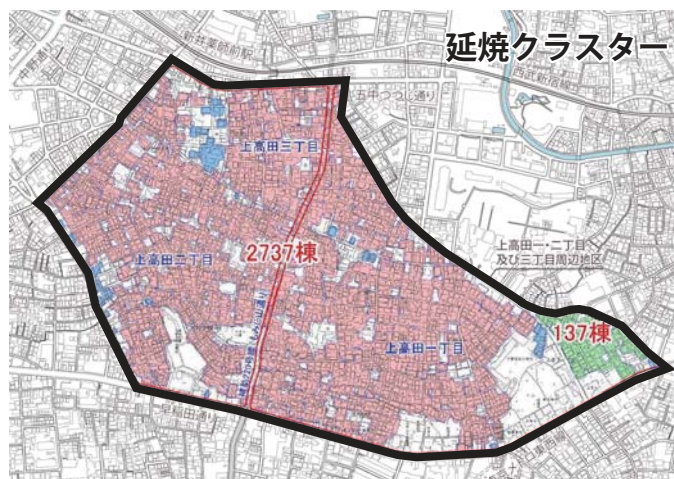
逃げられないまちである（避難の困難性）

- ・幅員4m未満の道路が大半を占め、行き止まり道路も多い。（右図参照）
- ・幅員4m未満の道路に接する住宅が全体の住宅の6割～8割を占めており、国の最低基準である50%を大きく上回っている。

地震や火災が発生した際に、建物の倒壊や行き止まり道路のため、安全に避難できない。



※1 全建築物のうち、新耐震基準以前（昭和56年5月31日以前）の木造建築物の割合



■事務局 〒164-8501 東京都中野区中野4-8-1

中野区 都市政策推進室 西武新宿線沿線まちづくり分野（9階19番窓口）

TEL: 03-3228-8827 担当：長坂、石井、高田